HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	生体反應側よりみた尿中生機物質の消長について：第12報 尿量と尿Vakat-Oとの相關について
Author(s)	平池, 正; 佐々木, 裕雄
Description	
Citation	結核の研究, 1, 90-91
Issue Date	1954-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26547
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_P90-91.pdf

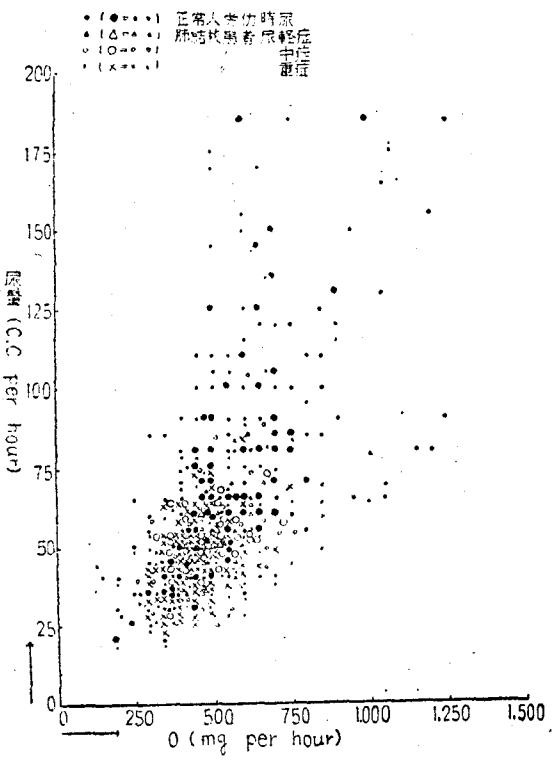
Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

生体反應側よりみた尿中生機物質の消長について

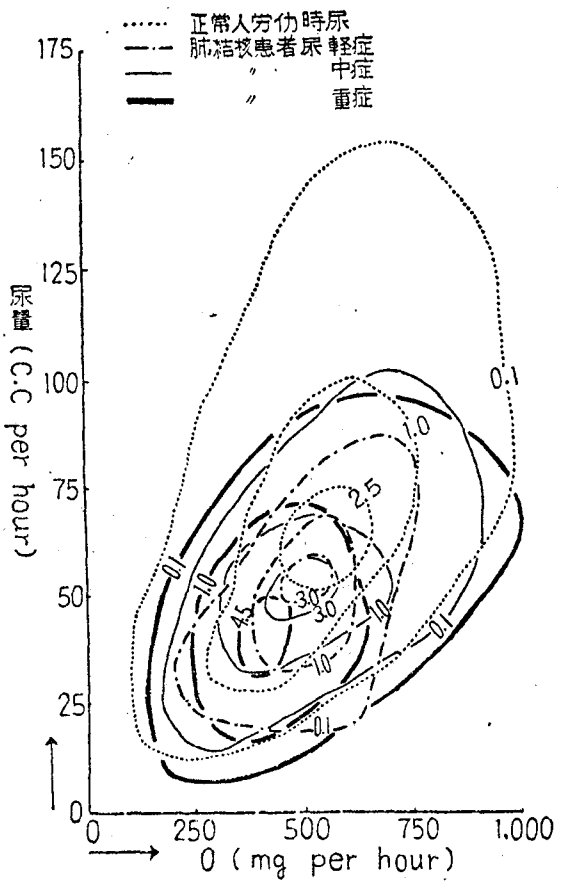
第12報　尿量と尿 Vakat-O との相關について*

平　池　　正・佐々木 裕 雄
(北海道大学結核研究所化学部門)

疲労測定法として採用し得るまず第1の条件は体内の物質代謝が右にでも，左にでもとにかく極端な方向をとつた場合，いいかえれば，生体の極端な catabolic あるいは



第 1 図



第 2 図

anabolic 両 phase (他に例をとれば vagotonie あるいは sympathicotonie 陥入生体) どちらにもその方法が同様に高値 (あるいは低値) を示すことである。

私どもの知つている方法の殆ど総ては体内の特定の機能系と関係が深いため，一般にそれらは catabolic phase かあるいは anabolic phase か片方にへんして⊕を呈する。現在までの研究方向がある臓器なら臓器，あるいはそれに附随する特定の機能系の生理解明のため，それに対する特殊反応，あるいは特殊の物質の検査，検出にあつたため，やむを得ないが，しかし疲労はあくまでも“外力に対する個体全体としての適応の良否云々”である以上，疲労測定法を考按せんとする場合，以上の如き特殊反応あるいは特殊物質を求めてゆく研究はその目的にそわないであろう。

今回は尿量と尿 Vakat-O との相関について報告する。

實驗方法並びに成績

尿 Vakat-O (O) は西風[1]の方法により，採尿条件は前

報[2-10]と同一で同一サンプルについて分析した。

図1はその原図であり，図2はそれを over lapping mean 法により各症例別に等頻度曲線を求めた。

尿量，Vakat-O (0) ともに結核症特にその重症のものにおいて低値をしめした。尿量において正常人の比較的高値を呈したのは結核症の全尿（1日尿）を採集したのに反し，日中追時的に採集したためである。いずれにせよ尿量の結核軽，中，重各症例においてさほど大きな差を示さないことは生機的にみて誠に興味深く，また重症において特にその標本分散の大なることと本症例症状の安定せざることとを併せ考える時，興味あるものがある。

尿量と Vakat-O の相関をみるに，さほど密な関係が無いが，その減少においてみるに Vakat-O のそれが尿量のそれに比し小であつた。

北海道大学山田内科特に国立札幌療養所の御協力に深謝の意を表する。なお本研究費の1部は文部省科学研究費(27年度)によつた。ここに謝意を表する。

文　献

1) 西風脩：　醫學と生物學. 24 (4)：119，昭 27.
2) 岩田教榮・齋藤辰次：　醫學と生物學. 25(4)：173, 昭 27.
3) 西風脩・佐々木裕雄：　醫學と生物學. 25(4)：179, 昭 27.
4) 野崎德治・中山雄二：　醫學と生物學. 25(4)：189, 昭 27.
5) 平池正・中川善治：　醫學と生物學. 25(4)：199, 昭 27.
6) 岩田教榮・齋藤辰次：　醫學と生物學. 26(1)：1-4, 昭 28.
7) 西風脩・佐々木裕雄：　醫學と生物學. 26(1)：4-7, 昭 28.
8) 中山雄二・野崎德治・平池正：　醫學と生物學. 26 (3)：94-97, 昭 28.
9) 岩田教榮・西風脩：　醫學と生物學. 26 (5)：192-196, 昭 28.
10) 齋藤辰次・中川善治：　醫學と生物學. 本號. 99-101, 昭 28.

(受付：昭和 28 年 1 月 23 日)
*　本論文は醫學と生物學第 27 卷第 3 號に發表した。